

1. 肝臓内科

肝臓内科部長 本村健太

2023年は、2022年と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。外来では再来の診療は維持できていましたが、紹介受診の制限や入院を制限した期間の影響があり年間の入院患者数は減少したままでした。そのような中で、肝細胞癌の治療のための入院人数自体には大きな変化はありませんでした。

新しい放射線治療装置であるサイバーナイフ（呼吸性移動がある肝臓の中にある腫瘍を追尾しながら精密照射する放射線治療機）による肝細胞癌治療が可能になりました。飯塚病院肝臓内科では、局所療法が適応である限局性の肝細胞癌に対して、従来からCTが撮影できるIVR-CT室で経皮的ラジオ波焼灼療法を施行し確実に治療するようにしていますが、腫瘍のサイズや存在部位、あるいは患者さんの年齢などの全身状態によっては、この方法でも治療困難な場合があります。そのような場合にサイバーナイフによる治療は極めて有効です。

また、進行肝細胞癌に対する新しい一次治療薬としてデュルバルマブ・トレメリムマブ併用療法が登場し、標準治療であるアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法と異なる選択肢ができました。日々のカンファレンスで意見交換を行いつつ、患者さんの状況に応じて最適の治療法を提供できるようにしています。

2023年1月～12月実績

1) 疾患別内訳（重複あり）

病名	件数	男	女	平均年齢
肝細胞癌	299	231	68	74.1
肝硬変	306	211	95	70.8
アルコール性肝障害	15	10	5	60.0
胆管癌	42	28	14	76.5
胆嚢癌	25	10	15	74.0
膵臓癌	1	1		68.0
胆管細胞癌（肝内胆管癌）	37	19	18	77.3
十二指腸乳頭部癌	6	3	3	66.0
急性胆嚢炎・胆管炎	112	74	38	72.6
肝膿瘍	11	9	2	70.5
消化管出血	8	6	2	69.4

2) 検査・治療件数

処置	患者数
経皮的ラジオ波焼灼療法	78
肝動注塞栓術	77
進行肝癌に対する全身薬物療法新規導入	57
インターフェロンフリー治療新規導入	58
PTGBD、PTCD	30
腹水濃縮再静注法（CART）	26
ERCP・IDUS・胆道内視鏡	50
放射線治療	34

3) 死亡例内訳

死因	患者数
原発性肝癌 （肝細胞癌 17） （肝内胆管癌 2）	19
肝硬変	13
その他	8
計	40

その他の内訳：肺炎（2）、急性肝不全非昏睡型、サルコイドーシス、誤嚥、肺高血圧症、COVID-19、重症アルコール性肝炎

総退院患者数	691 人
男	449 人
女	242 人
緊急入院患者数 （内救急車数）	247 人 109 人
予約入院	444 人
平均在科日数	14.3 日
平均年齢	71.8 歳